

建長寺たより

第六十九春号

元気な鎌倉建長寺に

お出かけ下さい

建長寺派管長 吉田正道

お彼岸をむかえ、春一杯になりました。鎌倉は元気で、とりわけ建長寺は元氣一杯です。

昨年・一昨年と皆様には、時頼公の七五〇年忌、開山様の生誕八〇〇年と、いろいろ、ありがとうございました。

さて、明年は臨済宗の祖「臨済禪師」の一一五〇年忌、白隠禪師も二五〇年忌をむかえます。京都での大法要、鎌倉での千人大坐禅会、京都・東京で大展覧会（国立博物館）、準備が始まっています。

その祝賀行事の一環として、五月三十一日（日）東京六本木ヒルズ四十九階で、禅の催しがあります。講演会・お坊さんとの対話・写経会と多様です。おでかけ下さい。現代人は、自分をみながくことが、大いに必要とされています。禅の催し、お寺での催しに参加して、自分をみながく機会を作して下さい。せっかく、人間に生まれました。生きている醍醐味を味わいましょう。

管僧堂	長家	吉田正道
宗務総長	高井正俊	正泰
総務部長	三井靖修	正悟
	主任	宗洪
法務部長	林重陽	宗陽
主任	藤池伸一	宗陽
	大蔵有邦	雲陽
教学部長	大永宗明	雲陽
主任	綾柳真徳	雲陽
財務部長	山崎亮道	雲陽
	田中裕子	雲陽
職員	荒井朝浩	雲陽
	立川良勝	雲陽
行者	渡部裕一	雲陽
	西川能文	雲陽

407ヶ寺
398人

新春講話の集い

二月十九日、建長寺で、新春講話の集いがもたれ、鎌倉の宗教者、鶴岡八幡宮吉田茂穂宮司、カトリック雪の下教会古川勉神父、建長寺管長吉田正道老師の「祈り」の講話がもたれました。

おかげさまで、本堂一杯、三百人をこえる方々が、熱心に聴講して下さいました。御来山ありがとうございます。

花まつり・花供養

降誕会は四月八日（水）十時

お釈迦さまの御生誕二六三八年を祝して、今年も、降誕会・花祭り・花供養を行います。花展も六日から八日まで、境内各所に展示されます。五日には子供生花教室も開かれます。

八日は、お花を無料で用意してあります。お釈迦さま・花塚に献花して下さい。甘茶供養・草笛奉納もあります。お釈迦さまが皆様のおいでをお待ちしています。

建長寺の公開行事

どなたでも参加できます
春の鎌倉、建長寺でお寺体験をしてみませんか。いろいろどりの花が皆さんをお迎えます。

●金・土坐禅会

（毎週、夕五時～六時すぎ）
始めての方もベテランも、どなたでも。吉田正道管長の御指導があるかも。

●三門土曜講話

（毎週、十一時と一時）
建長寺派の布教師・補による十五分講話。和尚による生のお話です。ふれあいもできます。

●親と子の土曜朗読会

（毎週、十時～十一時）
なんと五百回をこえました。

半僧坊入口の正受庵にて、御家族の参加大歓迎。お経も座禅も。終わったら、お茶とお菓子。

●半僧坊諸願祈禱

（毎日、九時～三時半）
霊風吹き渡る建長寺の奥ノ院、相模灘一望、富士山遠望、鎌倉パワ―の源です。

●坐禅（龍王殿）

写経（玄関入口の間）
行事日以外、どなたでも。写経は建長寺華嚴塔復興のため一巻千円の奉納をお願いします。
不明の点は建長寺にお問い合わせ下さい。

建長寺ト。ピックス

.....
**こんなことが
これからあります**

◆**得度式**

三月二十八日(土)

お坊さんになるには、得度を受けなければいけません。建長寺の管長さまからお釈迦さまのお弟子になる教えを受けます。頭を丸坊主にしてのかわいらしい小坊主さんの誕生です。

◆**お釈迦さまの降誕会**

四月八日(水)終日

十時大法要、二時鎌倉市仏教会の花まつり法要・花供養(花塚)。

五日には子供生花教室。六、七、八日は大花展。甘茶のご接待をしています。

◆**禅画展**

―日本全国から達磨さんの大集合

四月二十七日(月)〜三十日(木) 応真閣

◆**金澤翔子 書展**

五月二日(土)〜六日(水) 応真閣、得月楼

すっかり恒例になりました。翔子さんから素晴らしい元気をもらって下さい。

◆**竹の子子供会**

四月十八日(土)

建長寺の竹の子が主役、親子そろっての禅寺体験。食事作法の体験、坐禅と、一日楽しく過します。

申し込み制です。毎年、定員オーバーになります。

◆**無限の清風公開講座**

五月十五日(金)

建長寺が主催をして、広く皆様においていただく行事です。

文化講演Ⅱ長沼毅先生、演芸鑑賞Ⅱ国

本武春、柳家我太楼、林家楽一。そして、

禅寺の食事を楽しむ会です。

五千円の会費です。事前にお申し込み

下さい。おでかけをお待ちしています。

◆**茶筌供養**

五月三十日(土) 十時半〜

お茶をなさっている方が、日頃、使った茶筌を、おたき上げして、茶筌に感謝をする催しです。たくさんさんの茶道愛好家が参加されます。お茶席も用意してあります。

事前申し込み制です。お問い合わせを！

◆**水無月宿泊大坐禅会**

六月六日(土)〜七日(日)

臨濟禅師一一五〇年を記念しての行事。一泊二日で、建長寺の禅を大いに体験してもらいます。僧堂の老師の提唱も拝聴できます。

◆**お坊さんによる大法話大会**

六月二十六日(金)〜二十七日(土)

お坊さんが、皆さまにお話をさせてもらいます。来聴大歓迎です。

.....
こんなことがありました

◆**羅漢講式**

一月十五日(木)と八月二十三日(日)

三門の下には「びんずる尊者」五百羅漢の筆頭。三門楼上には五百羅漢がおりつりしてあります。年二回、この羅漢さまをたたえる法要をしています。

◆**節分会**

二月三日(火)

今年も好天に恵まれ、福男・福女の方が八十人、桜川ぴん助さんの奉納大カツポレ、ミス鎌倉と、盛大な法要の後、み

んなで、豆まきをしました。来山者五百人。楽しいひとときでした。

◆涅槃会 二月十五日(日)

お釈迦さまが亡くなられたことを、悼む法要です。道具衣という特別な衣をつけた正式な大法要です。

この他に、降誕会(四月八日)、成道会(十二月八日)があり盛大に荘厳におまつりをします。

◆鎌倉カルタ大会 三月七日(土)

鎌倉ペンクラブ主催の「鎌倉カルタ」大会です。建長寺鎌倉五山の第一位、毎年四人一組、百組をこえる子供たちが、押し寄せてきます。建長寺は応援団も合せて六百人分の建長汁を作ります。

◆日本ハム管理職坐禅研修会

二月十七日(火)～十八日(水)

建長寺では、会社や学校の坐禅研修会をしています。日本ハムの管理職の方々二十八人が、日本全国から集り、禅体験をして、日頃の多忙から離れて、心身を解放して、帰られました。ご苦労さまでした。

◆東北支援活動を続けています。

二月二十八日には神奈川避難と共に歩

む会の茶話会。二月十一日には未来連福プロジェクトのチャリティ演奏会。三月七日・八日には東北元氣市場、会場を提携し、観音募金で支援しています。

建長寺派から、

お寺はこんなこともしています

◆建長寺の開山さまの故里をたずねる旅 五月十六日(土)～二十二日(金)

建長寺の開山さま蘭溪道隆禪師は、中国四川省の出身です。今まで生誕の地が特定されていませんでした。

この度中国人の蘭溪道隆研究家・膨丹女史により、四川省涪陵市であることが判明しました。視察調査の旅にいきます。

◆法堂蔵(宝物等収蔵庫)落慶式

五月二十八日(木)

建長寺の蔵は老朽化し、使用不能となりました。立川市の普濟寺さんの一寄進による大応援を得て、綺麗に新築完成となりました。

普濟寺様御一行をおむかえして落慶式をとり行います。

◆寺庭婦人の集い 六月八日(月)

建長寺派のお寺の奥さんの集りです。

今まで、研修会はありましたが、ここで、会をつくって、女性パワーを結集していきたいらと思っています。

◆本山の寺務所には十四人の僧侶が勤務しています。パートさんも含めて四十人になります。今年から、遅まきながら、寺務所(内局)会議を月三～四回始めました。報・連・相で、みんなで建長寺(派)を保っていくためです。朝八時半の朝礼後、九時まで二十分程、みんなで朝の内外掃除を始めました。

建長寺は綺麗が江戸時代からのいい伝えです。

鎌倉宗教者会議

◆東日本大震災 追悼・復興祈願祭

三月十一日(水)於大本山円覚寺

今年から鎌倉宗教者会議(会長吉田茂穂八幡宮宮司)の主催となりました。

円覚寺に鎌倉の神道・仏教・キリスト教の宗教者、そして多くの市民が集い、追悼の祈りを捧げました。鎌倉の市民は東北を忘れません。

宗教者会議は、宗教者による勉強会を続けています。賛助会員も募集しています。

建長寺物語(六十七) 三浦浩樹

霊宝「円鑑」の伝来

建長寺に伝世する什宝の内、開山禪師遺愛の品も数あるなか、とりわけ著名であったのが「円鑑」と称する銅鏡でした。

伝承によれば、大覚禪師の寂後、鏡面に観音菩薩らしき尊容が顕現し、その姿が禪師の御真影と伝えられたことから、後世大覚禪師が「観音の化身」と呼ばれる由縁となった霊宝でもあります。

その由緒について、一山一寧の著した「円鑑讃并序」(『新編鎌倉志』所収)によれば、円鑑は開山禪師の門弟宗英(傑翁宗英)が宋より持ち帰り師に献じた品であり、その後、北条時宗の手に渡ると、時宗は円鑑寺に安置した観音像の腹中に鏡を納めたといえます。

しかし、応安七年(一二七四)の二月、円鑑寺で起きた大火ののち、その鏡は建長寺の所蔵となったのでした。

この火災の背景には、前回でも触れた「渡風経」に端を発した大覚・佛光両派の確執があったとみられ、当時、あくまで中立を貫いた義堂周信は、長老格であった石室善玖や、佛光派でも中立的な立場をとった帰山光一

(?―一二七四)等とともに両派の和解に努めたようですが、その対立は激しさを増し、応安六年(一二七三)五月、大覚派の門徒数百人が徒党を組み、放火狼藉に及ぼうとしたことが発覚したため、室町幕府は大覚派の五山における活動を一切停止するとの裁決を下すところとなり(『花宮三代記』)、大覚派門徒もついに正續院への渡風経を果たさざるをえなくなつたのでした。

そして、翌年の応安七年、突如として円鑑寺は炎に覆われ、伽藍の大半が灰燼へと帰してしまいました。

当山六〇世の伯英徳備が著した『大覚禪師鏡像紀實』は、この火災の折、夢告を受けた守厳(密室守厳)が円鑑寺に赴いたところ、円鑑を納めた観音像が山門下に落ちていたため、その像内より鏡を取り出し西来庵へ移した、と説明するのに対し、義堂の日記には、夢告と称して密室守厳が門に登り、円鑑を持ち去つたとあり、内容に相違がみられることから、大覚派でもある伯英が円鑑所有の正当性を唱えるため、霊験めいた『紀實』の説を書いたものと思われまふ。

大覚派と佛光派の対立感情が高まるなか、開山禪師所縁の遺宝の帰属をめぐる問題は、「渡風経」を強制されたことと併せ、大覚派の人々にとつて許しがたい屈辱となつてしまつたのかもしれない。(建長寺史調査員)

公開講座「鎌倉禅研究会」

春到来、建長寺の境域も、花々に彩られる候、鎌倉禅も新しい息吹に満ちています。彭丹女史の開山語録の翻訳、そして『東アジアのなかの建長寺』の執筆先生の講義、高橋先生の鎌倉仏教秘話。ありがたくも嬉しいお話の連続です。御来講を、お待ちしております。

●第百七回例会 四月十六日(木) 一時～四時半

第一講 開山語録の現代語訳 一時～二時

法政大学講師 建長寺研究員 彭丹先生

第二講 鎌倉の中世石造物と建長寺開山塔 二時～

鎌倉考古学研究所所員 古田土俊一先生

第三講 菩提達磨の画像を読み解く 三時半～四時半

元金沢文庫長 高橋秀榮先生

●第百八回例会 五月七日(木) 一時～四時半

第一講 開山語録の現代語訳 一時～二時

法政大学講師 建長寺研究員 彭丹先生

第二講 鎌倉禅林と「鎌倉派」仏画 二時～

慶応大学大学院教授 林 温先生

第三講 釈迦の仏像と仏画 三時半～四時半

元金沢文庫長 高橋秀榮先生

●第百九回例会 六月十一日(木) 一時～四時半

第一講 開山語録の現代語訳 一時～二時

法政大学講師 建長寺研究員 彭丹先生

第二講 鎌倉時代禅宗寺院の喫茶 二時～

元屋代高校教諭 称津宗伸先生

第三講 遺札供養と卒塔婆供養 三時半～四時半

元金沢文庫長 高橋秀榮先生

●第百十回例会 七月九日(木) 一時～四時半

第一講 開山語録の現代語訳 一時～二時

法政大学講師 建長寺研究員 彭丹先生

第二講 『建長寺指図』と仏殿・法堂・衆寮 二時～

東北大学大学院助教 野村俊一先生

第三講 仏像の像内納入品 三時半～四時半

元金沢文庫長 高橋秀榮先生

◆聴講無料・予約不要、拝観料三〇〇円はお支払い下さい。御車の方は駐車料金をお支払い下さい。